## 平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 10 - 13

1 事務事業の表示

<u> </u>	事務事業の表	<u>示</u>									: 該当
事	務事業名	共栄栄丘	線法面	面補	修事業	ŧ					
	価 者	担当課名	建設水道課			担当係名		土木管理係			
評		管理職	職名	課長			作成者		職名		係 長
			氏名	佐					氏名	Œ	月原 慎 也
事	業の概要	平成21年7月の集中豪雨により町道の法面が一部崩落したことから、これを補修し、安全な通行の確保を図るために実施する事業であります。    全体計画 / 単年								年度~     22     年度)       出金     千円       債     千円       他     千円       が源     5,000 千円	
実	実 施 方 法 直 営				民間委託			その	他 (		)
第5期総合計画(前期)			期)		登載事業			非登載	登載事業 優先 月		Α
		政策目	策 目 標 4 うるおい・雄武~生活環境・生活基盤の充実~								
事業の位置付け		基 本 施 策 16 交通体系の整備									
		単 位 旅	も 策	1	1 道路環境の向上						
		事務事業の種類		自治事務			法定受託事務				
		その他計画・									
事業費	実施年度	20年度(実績		年度	(実績)	22年	度(実		23年度	夏(見込)	24年度(計画)
	国·道支出金	千日			千円		千円		千円		千円
	地方債	干			千円		<u>千円</u> 千円		千円		千円
	その他財源	干	<del>၂</del>		千円					千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	干F		千円		4	4,725 <mark>千円</mark>			千円	千円
	合 計	千日	円		千円	4	4,725 千円			千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan·Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望まい1指標(目的達成状況を最も端的に表す理論 上の成果指標)							
【抱える課題や ニーズは】	法面の土砂崩落による通行障害。	補修面積							
		指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値							
		補修面積 / 補修面積 <mark>目標年度</mark> 平成22年度 の実績							
【どのような状態 になることを目指	車輌の通行の安全確保。	<b>日標値</b>   200 ㎡							
したのか(意図)		実 績 値 200 ㎡							
		達成度 100.0 %							
【その結果、どの		目標年度							
ような成果を実現	道路利用者の安全な通行の確保。	<mark>目標値</mark>							
したいか】 成果 = 目的		実績値							
ル末 - ロロリ		達 成 度 %							
内容(どのような手段で何を行ったか)									
民間業者による 工事の実施	入札により、民間業者に工事発注し、補修等の工事を実施した。								

3 事務事業の評	Am (Ch	ark)				裏			
(1)事務事業の必要	要性(町	民ニーズ・社会情			要があるか。当該事務事業 ・見直しによる対応可能性)				
必要	製務的なもの 全部 一部		崩落した町道の法面を補修し、道路利用者の安全な通行を確保することは町が担う必要がある。						
必要/概ね必要/ 課題あり									
(2)事務事業の有効	(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)								
<b>有効</b>	設定した目標値の達成 <mark>状況</mark> ■ 達成 ほぼ達成		当該事業を実施したことにより、法面の土砂崩落による通行障害 を未然に防ぐことができ安全な通行の確保が図られた。						
課題あり		回る							
(3)事務事業の効率		トに見合った効果 判断の理由	が得られたか、計画	上のコストを	下げる工夫をしたか)				
<b>効率的</b> 効率的 / 概ね効率	事人時	業費抑制 員削減 間短縮·作業軽減	法面の土砂崩落の する。	拡大を防止で	きたことは、効率的であると判	断			
	<mark>的/課題あり その他 その他</mark>								
(4)事務事業の公平		判断の理由 益者負担がある	崩落した町道の法に	面を補修する	ことで、道路利用者の安全な通	<b>五</b>			
公平/概ね公平/ 公平でない		益者負担がない 益が一部に偏る の他			数の道路利用者に対して公平である				
4 総合評価【A ~ D】 A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等									
自己評価	価(一次	(評価)	評価会議評価(二	二次評価)	町長評価(三次評価)				
	A								
事業が目標どおり	達成され	<b>いた</b> 。							
<mark>今後の展開方</mark> (Action)									
	終了	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	, and the second		•				
平成22年度事業約	冬了								
*展開方向の区分 継続/現状網	推持又は	拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し	 <sub>ノ</sub> ·変更	終了休止廃」	止			
5 その他特記事項	<b>〔</b> (アン	ケート調査など外語	部評価を受けた場合	は、その旨記	3入)				